

≡≡≡支部だより≡≡≡

関西支部第17回夏季大学実施報告

関西支部第17回夏季大学は、「天気予報を上手く使おう」をテーマに、1日目の1995年8月1日を文部省の科学研究費補助金「研究成果公開促進費」の交付を受け無料の講演会として、2日目の8月2日を従来どおりの有料の公開講座として大阪市中央区のエル・おおさかで開催した。大阪の最高気温が33°Cを超える暑い2日間であったにもかかわらず、1日目462名、2日目125名の画期的な数の受講者があった。

講義の題名及び講師は次のとおりで、いずれも新しい気象学を解りやすく解説した講義であったため、講義直後ばかりでなく休憩時間にも質問が多く、活気ある夏季講演会となった。

8月1日

「モデル実験で学ぶ気象」木村龍治（東京大学海洋研究所）

「天気予報の基礎講座」松岡隆（岡山理科大学）

「天気情報と報道」小谷純久（日本気象協会）

8月2日

「大気シミュレーション」木田秀次（京都大学理学部）

「天気予報の現状と将来」新道七朗（松山地方気象台）

アンケートの集計結果を要約すると、受講者数は、年代別では1日目が20代・60代・40代・30代…、2日目が20代・40代・30代・50代…の順に多く、職種別で

は1日目が教職員・(60代以上の方)・(大学生)・会社員・公務員…、2日目が会社員・教職員・公務員・(大学生)・(60代以上の方)…の順に多かった。男女比は、1日目2対1、2日目5対1であった。初めて夏季大学に参加した方の比率は、1日目86%、2日目72%に達し、今回の企画が新しい試みであったことを示している。また、気象予報士試験の受験意志のある者の比率が、既に受験した者も含めて1日目60.7%、2日目78.1%との結果が出ている。

開催するか否かの判断に苦慮することから始まった第17回夏季大学であったが、支部委員一同、参加者の天気予報に対する関心の大きさや夏季大学など気象の講座に対する期待の大きさを実感することができ、例年以上の素晴らしい夏季大学になったと思っている。しかし、補助金を受けることが4月末に決まって夏季に開催するには時間的余裕がないことや、出席者400人規模の講座を開くには、会場及び機器の借料が高額となって1日100万円程度の予算が必要になるばかりではなく事務上の大変な労力を必要とすることなどから、補助金による講演会と毎年継続的に開催してきた夏季大学とは切り離した方がよいとの意見があり、今後解決すべき問題として残った。

(日本気象学会関西支部)

第29期役員候補者選挙投票のお願い

日本気象学会第29期役員候補者選挙の投票〆切は3月11日(月)です。郵送または投票箱に投函願います。詳しくは、投票用紙と一緒に送付された「投票についての注意事項」をご覧ください。

なお、投票用紙が未着の方は至急選挙管理委員会事務局までお知らせ下さい。

選挙管理委員会事務局

気象庁予報部長期予報課内

TEL. 03-3212-8341 (EXT. 3152)